

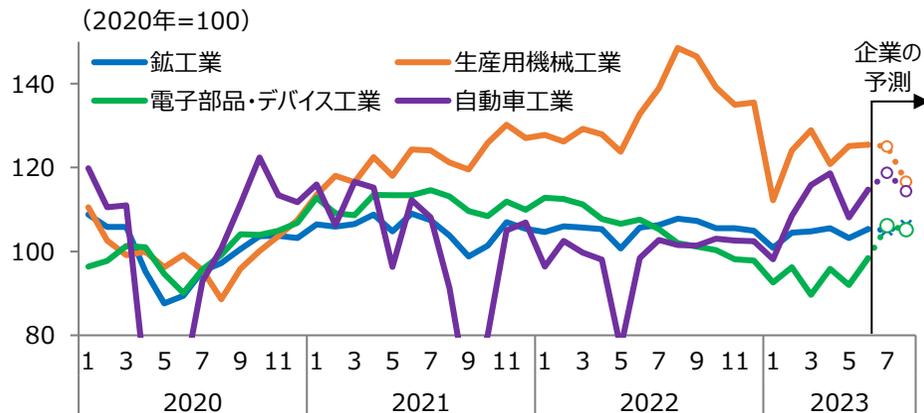
日本

鉱工業指数（2023年6月）

生産は4-6月期に小反発、半導体サイクルに底打ちの兆しも

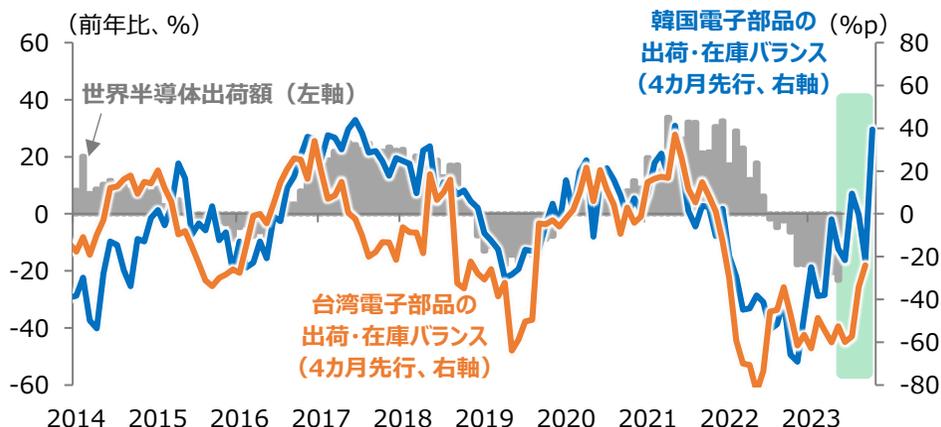
政策・経済センター
堂本健太
03-6858-2717

1 鉱工業生産指数（業種別）



注：企業の予測について、鉱工業は製造工業、自動車工業は輸送機械工業の生産予測指数を接続。
出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」より三菱総合研究所作成

2 半導体関連指標



注：出荷・在庫バランス=出荷前年比-在庫前年比。
出所：WSTS（世界半導体市場統計）、台湾經濟部統計処、韓国統計局より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 6月の鉱工業生産指数（季調値）は、前月比+2.0%と、2カ月ぶりに上昇した（図表1）。4-6月期でも、前期比+1.3%と三四半期ぶりのプラスとなった。
- 業種別にみると、自動車工業は、部品の供給制約緩和を受け、4-6月期前期比+5.9%と1-3月期（同+4.7%）から引き続き大幅プラスとなった。また、電子部品・デバイスは、4-6月期同+2.8%と5四半期ぶりのプラスに転じた。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、一進一退の動きが続くなか、自動車生産の正常化が牽引する格好で緩やかに持ち直している。
- 先行きは、底堅い推移を見込む。その背景として、①高水準の自動車生産が続くことや、②低迷していた半導体サイクルの底打ちが見込まれることがある。
- ①について、企業の生産予測によると、輸送機械工業（内訳は自動車工業が8割以上）は7月前月比+3.5%、8月同▲3.7%と振れはあるものの、高水準での生産が見込まれている（図表1）。国内大手メーカーでは8~10月の生産計画について、積み上がった受注に対応するため新型車を中心に国内で大幅増産の方針が示されている。
- ②について、電子部品・デバイス工業の生産予測は7月前月比+8.0%、8月同▲0.9%と増産傾向にある（図表1）。世界半導体出荷額は5月前年比▲23.2%と低迷が続いているが、先行指標とされる台湾や韓国の電子部品の出荷・在庫バランスは在庫調整の進展から減産圧力が弱まりつつあることを示している（図表2）。SEMI（国際半導体製造装置材料協会）が5月18日に公表したレポートでは、半導体業界の市場規模について、23年4-6月期に底を打ち、7-9月期から回復に向かうとの予測が示されている。
- もっとも先行きの生産については下振れリスクが大きい。特に中国経済の回復の遅れは、輸出の減少を通じて国内生産の重石となる。中国の製造業PMIは中立水準の50を4カ月連続で下回っており、景気刺激策の動向が注目される。